みんな一緒に生きること

岩崎けんいち

山の都ふれあいコンサートに参加するようになり、そこへ行かないと会えない人たちや誰かの支えがなければ生きていけない人たちが、本当にいる事を肌で感じました。
ふれコンに参加し始めて20年くらいになるでしょうか。ふれコンで出会った人たちから同時に存在している人たちが沢山いる事を知り、世界がグンと広がりました。そして出会いが僕の言葉になっているのを感じています。
ふれコンから生まれた「必要な人」という歌との出会いはとても大きく、歌が一人歩きし学校で歌われることになったり、また何処で歌っても力のある歌だと実感する出会いが多くあります。先日も重度の障がいを持つ人が利用している病院に行った時に、必要な人を歌うと言葉になってはいませんでしたが、ハッキリと必要な人を歌っているのだとわかる出会いがありました。瞬きで拍手をしている人もいたと教えてくれました。初めて行く場所なのに歌はすごいなぁー、世界を繋いでいるなぁー。作詞作曲者も歌ってる人も有名な人ではないのに、ふれコンから生まれた歌が世界中に広がって行くイメージが湧いて来て、希望に満ち溢れた帰り道になりました。
あゆみキッズとの出会いもいろんな事を教えてくれています。僕のLIVEにも来てくれるようになりました。これはとても大きなこと。慰問ではなく、一般の人と同じようにLIVE会場へ足を運び楽しんでいるのです。
当たり前のようでとても大きな一歩。
前例は作って行くものという事を行動で教えてくれています。

迷惑がかかるかもしれないと家族は躊躇するのが常ですが、楽しんでいる所を見せて行く事で、一般の人にもこの町に暮らす様々な状況の中で生きている人たちの存在を、大きく知ってもらえるきっかけになると感じています。デリケートな事も含んでいるので、よく考え行動する事を試しながら気づき学んで行く。障がいを持った人たちは何か足りないのではなくて、僕たちが持っていないものを持っている人だという事を教えてくれています。不思議な事にあゆみキッズと夢中で歌ったり踊ったりしていると、いろんな事を忘れてしまう瞬間があります。あゆみキッズが障がいを持っている事も忘れて、ただただ楽しい時間があるだけ。

不思議な心の動きにも出会えました。障がいを持った人たちの作詞に嫉妬するようになっています。ライバル心を燃やしているのです。嬉しくて面白いです。子どもの描く絵のように敵わないなぁというような気持ちになります。言葉選びや感性に嫉妬し悔しくなります。そして僕の創作活動の中で無意識を形にして行きたいと強く思うようになりました。
嫉妬する気持ちが僕を高く高く歩ませている事も確かなこと。
はじめは何か僕に出来る事はないかと「してあげる」という気持ちだったと思います。それはとてもおこがましかったなと思っています。そして今はもっと圧倒的な歌を書いたり圧倒的なパフォーマンスを見せる事が僕に出来る事と思うようになりました。
ふれコンは可能性を見せ合う場になっています。

カンボジアへ行くようになったり、震災後福島県飯舘村から引き取った牛の世話をするようになったり、
ふれコンとの出会いからまず飛び込む事ややってみることから始める。そんな姿勢になりました。
やりたい事をやりたいようにやってみて教えてもらうやり方。
そして色んな出会いから幸福感というものはどんな状況や環境であっても持てるという事を教えてもらっています。
そこにはいつも笑顔があります。
乗り越えて来たからでしょうか。受け入れているからでしょうか。その真っ只中にいる人たちは、穏やかで柔らかくて優しくて力強くてたくましくて、それからそれから、まだまだ気づけてない事がいっぱいありそうです。
不思議です。毎回新しい発見があるふれコン。
何よりふれコンが凄いのは、毎回新曲だらけのコンサートという事。そして誰も知らない曲を見聞きする人が沢山いるということ。そしてそして、それを40年以上も続けて来たということ。
もうこれは山梨の文化！偉業です！
常に前を向いて、明るく、新しく、その先へ。
『みんな一緒に生きること！』こんなメッセージやメロディが聞こえて来ます。
すごいぞ、ふれコン！

LOVE+
Song for Yamanashi
～みんなつながってる～